

第6学年 外国語科学習指導案

令和5年11月7日(火)

〇〇小学校6年〇組〇名

指導者 〇〇 〇〇

1 単元名 This is Japan. ～日本のステキをしょうかいしよう～

(参照：『Junior Sunshine 6』Lesson4「Welcome to Japan.」)

2 単元について

○児童観

4月に実施された「全国学力・学習状況調査」における学年全体の結果は、「児童質問紙」の外国語科の学習に関するすべての項目で、肯定的な意見が全国平均を上回った。中でも「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思う」が64.0ポイント(全国平均52.0ポイント)と顕著だった。また、「日本や自分が住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思う」で83.5ポイント(全国平均78.1ポイント)、「英語の勉強は大切だと思う」で94.8ポイント(全国平均91.0ポイント)という結果であった。本学級においても同様の傾向が見られる。

本学級では、外国語科の時間に触れた英語表現を使って休み時間にやり取りを楽しんだり、学んだことを発展させた内容を自主学習ノートにまとめたりするなど、学習した内容を実際の場面で使用しようとする児童の姿が多く見られる。このことから、既習の英語表現を主体的に活用しようとする態度が少しずつ身に付いてきたと感じている。また、言語だけでなく各国の文化的背景や価値観にも目を向けている様子から、児童が自分と世界とのつながりを意識し、外国語科の学習に取り組んでいることがうかがえる。

一方で、一部の児童は、十分に慣れ親しんだ表現を使う会話や発表の場面では、自信をもって自分の話したいことを伝えようとするができるが、自分が話した内容について質問をされると、①質問されている内容を即時に理解できない、②質問されている内容を理解することはできるがどのように答えるべきなのか分からない、③質問されている内容を理解することはできるがそれに対する答えが分からない、等でその場で質問したり、質問に答えたりするやり取りにつながらず困惑したり沈黙してしまったりすることがある。①～③のような状態が繰り返されることによって、英語に対して次第に苦手意識をもつようになってきているのではないかと捉えている。また、この苦手意識が、英語を実際の場面で使用することに対する自信のなさにもつながっているのではないかと捉えている。

○教材観

児童は、5年時の単元「We love 〇〇(地名).～〇〇のステキをしょうかいしよう～」(参照：『Junior Sunshine 5』Lesson9「I love my town.」)で、自分たちが住んでいる地域のことを新しく赴任したALTに知ってもらうために、町にある施設や場所について、自分の考えや気持ちなどを含めて話すことを経験している。

前述単元の活動内容と類似しているが、本単元ではスリランカの中学生を対象に、日本の若者文化や現在の流行について、自分の考えや気持ちなどを含めて話す。前述単元との違いは、学級の児童全員がその文化や流行についての情報を必ずしも知っている訳ではないということである。これまで知らなかった文化や流行について知ること、自国に対する理解や親近感を深めることが期待できる。このように、それぞれの感じ方や考え方の違いに気付くということは、児童一人一人がそれぞれの価値観に触れるということであり、「話したい、聞きたい」といったコミュニケーションへの関心・意欲を高めるきっかけになりうると考える。

また、コミュニケーションへの関心や意欲が十分に高まった児童は「より詳しく話したい、より詳しく聞きたい」という思いから、やり取り(発表内容に対して質問したり、質問に答えたりすることを指す)の活動へ自然に移行できると考える。

そこで、本単元における児童の活動目標(最終ゴール)を「スリランカの中学生に向けて、自分たちのおすすめる日本の若者文化や現在の流行について伝える」と設定した。この目標を達成するために、児童は日本の若者文化や現在の流行について説明し、なぜそれを勧めるのか等を話すことになる。日本の文化について十分知識をもたない相手に対し

て、理解を得られるように話すことは児童にとってかなりハードルが高いと思われるが、自身の体験に基づく考えや気持ちをどうにかして伝えようと、児童が主体的に工夫していくことが期待できる。また、他国の文化について知りたいという動機を高めることも期待できる。

さらに、本単元での学びを、11月中旬に国語科で実施予定の単元「日本文化を発信しよう」と関連させることで、教科横断的な学びができると考えている。

○指導観

本単元の活動に必然性・相手意識をもたせるために、活動目標を「スリランカの中学生に向けて、自分たちのおすすめする日本の若者文化や現在の流行について伝える」とした。

昨年度5か月間、5年生の家庭科を担当していた講師（以下、A氏とする。）が現在、JICA 海外協力隊員としてスリランカに赴任し、現地の中学生に日本語を指導している。A氏から、「現地中学生が日本語を勉強する過程で日本に憧れ、自分たちと同年代の日本文化や現在の日本の流行に興味をもっている。私は、現在の若者文化については詳しくないので、児童に日本の若者文化や流行について教えてほしい。」と依頼を受けた。このことを単元の活動目標として導入から明確に示し、以降の言語活動に目的や見通しをもって取り組むことができるようにする。

本単元目標を達成するためには、自分の伝えたい内容や思いに適した英語表現に気付き、その表現を使った発表練習をスモールステップで何度も行うことによって、十分慣れ親しむことが必要となる。そこで本単元では、インプットに関わる第3～5時で **Small Talk** を設定し、相手を変えながらやり取りを繰り返す中で、自分自身の気持ちにより適した表現が何であるかに気付かせ、選択させるとともに、それらの表現に十分慣れ親しませるようにしたい。また、やり取りを通して相手を意識した紹介をするための視点や表現に気付くことで、自分たちの発表を主体的に改善しようとする態度を育成したい。

第1時では、A氏からのビデオメッセージを視聴する。そして、単元設定の経緯を児童と共有し、単元目標を児童とともに設定する。

第2時では、現地の中学生とオンラインでやり取りし、彼らがどのようなことに興味・関心があるかを知る。また、現地の中学生による、現地の若者文化や現在の流行についての話を聞くことで、日本の若者文化や現在の流行について相手に伝えるときの大まかなイメージを掴む。

第3・4時では、伝えようとする内容に必要な表現や効果的に伝えるための方法に気付き、友だちと模擬的なやり取りを何度も繰り返す中でその表現や話し方に十分慣れ親しむ。

第5時では、現地の中学生の興味・関心に沿って、何についてどのように紹介するかを考える。

特に本時（第6時）では、紹介したい内容を表す言葉（形容詞等）を吟味したり、単語や文を付け足したりして、相手を意識したよりよい紹介ができるように工夫する。

第7時では再度、現地の中学生とオンラインでつながり、最終の活動目標である「スリランカの中学生に向けて、自分たちのおすすめする日本の若者文化や現在の流行について伝える」ために、児童一人一人が相手を意識した発表とそれに関するやり取りをする。

第8時では、現地の中学生に送るために、紹介した内容をまとめる活動（書く活動）を行う。

このように、自分の思いや考えの詰まったおすすめの本文化について英語で話すことが、「自分もやればできる」という自信につながり、中学校での学習を頑張り通す心の支えとなるようにしたい。

3 単元の目標

スリランカの中学生の興味・関心に応じた日本の若者文化や現在の流行について、音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を用いて話すことができる。

※本単元における「聞くこと」「書くこと」については目標に向けて指導は行うが、本単元内で記録に残す評価は行わない。

4 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと 〔発表〕	〈知識〉 日本の食文化や芸術文化に関する語句、We have ～. It's ～. You can ～.の表現について理解している。 〈技能〉 相手の興味・関心に沿った日本の食文化や芸術文化に関する語句、We have ～. It's ～. You can ～.などの表現を用いて、考えや気持ちなどを話す技能を身に付けている。	スリランカの中学生により理解してもらうために、相手の興味・関心に沿った日本の食文化や芸術文化などについて、考えや気持ちなどを加え、相手に伝わるよう工夫して話している。	スリランカの中学生により理解してもらうために、相手の興味・関心に沿った日本の食文化や芸術文化などについて、考えや気持ちなどを加え、相手に伝わるよう工夫して話そうとしている。

5 単元の指導と評価の計画（8時間）

時	目標（◆）と主な活動（○）	評 価			
		知 技	思 判 表	態 度	◎評価規準（評価方法） ※指導・学習改善のための評価（方法）
1	◆A氏からのビデオメッセージを視聴し、単元の見通しをもつことができる。 ○Let's Watch and Think ・A氏からのビデオメッセージを視聴する。 ・単元設定の経緯を児童と共有し、単元目標を児童とともに設定する。 ○Teacher Talk ・日本の食文化や芸術文化を紹介する単語や表現を知る。 ○Reflection				本時では記録に残す評価は行わないが、目標に向けた指導をし、必要に応じてメモを残す。
2	◆スリランカの中学生とやり取りし、彼らがどのようなことに興味・関心があるかを知ることができる。 ○Let's Think ○Let's Talk ・日本の文化や現在の流行について、現地の中学生がどのようなことに、どの程度、興味・関心があるかを知る。 ○Reflection				本時では記録に残す評価は行わないが、目標に向けた指導をし、必要に応じてメモを残す。
3	◆伝えようとする内容に必要な表現や効果的に伝えるための方法に気付き、その表現や話し方に十分慣れ親しむことができる。 ○Small Talk “What is our popular song in Japan?” ○Hint Quiz ○Let's Talk ○Reflection	(発)			※日本の食文化や芸術文化に関する語句、We have ～. It's ～. You can ～.の表現について理解している。 （行動観察・動画記録） ※相手の興味・関心に沿った日本の食文化や芸術文化に関する語句、We have ～. It's ～. You can ～.などの表現を用いて、考えや気持ちなどを話す技能を身に付けている。 （行動観察・動画記録）

4	◆伝えようとする内容に必要な表現や効果的に伝えるための方法に気付き、その表現や話し方に十分慣れ親しむことができる。			
	○Small Talk “What food is popular in Japan?” ○Hint Quiz ○Let's Talk ○Reflection	発		◎日本の食文化や芸術文化に関する語句、We have ～. It's ～. You can ～.の表現について理解している。 (行動観察・動画記録) ◎相手の興味・関心に沿った日本の食文化や芸術文化に関する語句、We have ～. It's ～. You can ～.などの表現を用いて、考えや気持ちなどを話す技能を身に付けている。 (行動観察・動画記録)
5	◆スリランカの中学生の興味・関心に沿って、何をどのように紹介するかを考える。			
	○Small Talk “What anime is popular in Japan?” ○Let's Think ○Let's Talk ○Reflection	(発)		※スリランカの中学生により理解してもらうために、相手の興味・関心に沿った日本の食文化や芸術文化などについて、考えや気持ちなどを加え、相手に伝わるよう工夫して話している。 (行動観察・振り返りカード点検)
6 本 時	◆紹介したい内容を表す言葉を吟味したり、単語や文を付け足したりして、相手を意識したよりよい紹介ができるように工夫することができる。			
	○Let's Think ○Let's Talk ○Reflection		発	◎スリランカの中学生により理解してもらうために、相手の興味・関心に沿った日本の食文化や芸術文化などについて、考えや気持ちなどを加え、相手に伝わるよう工夫して話そうとしている。 (行動観察・振り返りカード点検)
7	◆スリランカの中学生に向けて、自分たちのおすすめする日本の若者文化や現在の流行について伝えることができる。			
	○Let's Talk ○Reflection	発	発	◎スリランカの中学生により理解してもらうために、相手の興味・関心に沿った日本の食文化や芸術文化などについて、考えや気持ちなどを加え、相手に伝わるよう工夫して話している。 (行動観察・振り返りカード点検) ◎スリランカの中学生により理解してもらうために、相手の興味・関心に沿った日本の食文化や芸術文化などについて、考えや気持ちなどを加え、相手に伝わるよう工夫して話している。 (行動観察・振り返りカード点検)

					術文化などについて、考えや気持ちなどを加え、相手に伝わるよう工夫して話そうとしている。 (行動観察・振り返りカード点検)
8	◆スリランカの中学生に向けて紹介した内容を英語でまとめることができる。				
	○Let's Watch and Think ・前時に話した内容を動画で確認する。 ○Let's Read and Write ・Word Listを見ながら、前時に話した内容を書き写し、まとめる。 ・仕上がったものを友達同士で読み合う。 ○Reflection				次单元とあわせて、記録に残す評価を行う。

6 「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標（第6学年）

[○○中学校区 小中連携版 「CAN-DOリスト」] より抜粋

聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと
ゆっくりはつきりと話されれば、1日の生活について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることができる。	活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができる。	基本的な表現を用いて、挨拶や自己紹介、未来の自分などについて紹介したり、指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることができる。	自分の一日の生活や、夏休みにしたいことなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。	大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができる。
L2	L10	L1, P1	L2, L5	L5, L6
ゆっくりはつきりと話されれば、日本のことや世界で活躍する人などについて、具体的な情報を聞き取ることができる。	音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かる。	自分の行きたい国や将来の夢などについて、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができる。	日本のことや、自分の好きなスポーツ、選手などについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。	大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができる。
L4, P1	L6	L3, L10	L4, L8	L5, L6
ゆっくりはつきりと話されれば、世界の衣食住や中学校生活などについて、短い話の概要を捉えることができる。		友達や先生方と自分の好きなスポーツや選手、将来の夢などについて、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができる。	夏休みの思い出や自分の将来の夢などに日本のことや、思い出に残っている学校行事などについて、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。	自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができる。
L7, L11		L8, L11	L6, L10	L9, P2

※網掛け部分は、本单元に関連する学習到達目標

7 本時の活動（第6時）

（1）目 標

紹介したい内容を表す言葉を吟味したり、単語や文を付け足したりして、相手を意識したよりよい紹介ができるように工夫することができる。

（2）展 開

時間	児童の活動	指導者の活動	指導上の留意点 ◎評価規準（評価方法）
2分	Greetings	・全体に挨拶するとともに、個別にも挨拶をする。	
10分	Let's Think ・自分たちのおすすめする日本の若者文化や現在の流行について話す内容を考える。	「日本のステキしょうかい」の練習をしよう。 ・相手を意識したよりよい紹介をする方法を確認する。	・既習表現を想起し、活用しながら紹介の内容を考えられるようにする。
25分	Let's Talk ・おすすめする日本の若者文化や現在の流行について話す練習をする。 ・必要に応じて、話す様子をタブレットPCで撮影する。撮影したものをしながら、自己評価し、自分たちの考えや気持ち、情報等を効果的に伝える工夫を考える。	・各グループを回り、技能面（音のつながりやイントネーション、資料の見せ方等）と内容面（付加情報や説明、気持ちを伝えるための適切な言葉・表現等）から、グループに応じたアドバイスをする。 ・上記に基づいたフィードバックを行う。	◎スリランカの中学生により理解してもらうために、相手の興味・関心に沿った日本の食文化や芸術文化などについて、考えや気持ちなどを加え、相手に伝わるよう工夫して話そうとしている。 （行動観察・振り返りカード点検）
7分	Reflection ・本時の活動を振り返る。	・「振り返りカード」の文言を用いて、振り返りの視点を示す。	・本学習を通して、自分で気がついたこと、友だちや指導者から学んだことを区別して整理できるようにする。 ・次時の意欲に繋がるよう、具体的に児童の良かった点を評価する。
1分	Greetings		

（3）評価及び指導の例

「話すこと〔発表〕の態度」

「十分満足できる」と判断される状況(a)例	相手の興味・関心に沿った現代日本の食文化や芸術文化などについて、自身の考えや気持ちなどを加えつつ、相手に共感してもらえるように話そうとしている。
「努力を要する」状況(c)と判断した児童への事後指導	現代日本の食文化や芸術文化などについての考えを引き出し、できるだけ具体的に相手に伝わるよう、アドバイスしながら「おおむね満足できる」(b)を達成できるようにする。